

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	アイソトープセンター
--------	------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1) 研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	当センターは、放射線管理区域と放射線業務従事者について、放射線障害防止法および関連法令、中部大学放射線障害予防規程、中部大学アイソトープセンター放射線障害予防規程に基づき安全に管理・維持することが使命である。放射線安全管理担当者および放射線取扱主任者が毎月安全点検と記録を行い[1110a]、2020 年 3 月にアイソトープセンター放射線安全委員会において管理状況を報告し[1120a]、これを委員が検証して自己評価を行い議事録に記録した[1120b]。これら報告と自己評価について、2020 年 3 月に中部大学放射線安全委員会に報告した。さらに 2020 年 5 月、放射線管理状況について国の原子力規制委員会に報告した[1110b]。
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1110	法令・規程を遵守して管理を行い、実験環境を提供しつつも放射線被曝事故や汚染事故がゼロであったことが、当センターとしての最大の成果である。
項目 No. 1120	2013 年には国の立入検査を受け、管理状況が適切であることが確認されたが、2019 年度も同水準の委員会活動により管理状況の点検と自己評価を適切に実施した。
課題事項 << 箇条書き >> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1110	設置から 19 年が経過し、施設設備の老朽化が問題であり、対応するための体制づくりが必要である。
項目 No. 1120	これまでも深夜を含め度々急な故障が発生したことから、深夜や授業中、出張中等に緊急事態が発生した場合に備え、対応可能な教員を複数配置しておく必要がある。また、高額費用の負担を柔軟に対応できる仕組みづくりも必要である。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	<p>1. 施設設備の経年劣化により発生した不具合のうち、法令に関わる事案については逐次対処した[1120a]。費用面から全機器の予防的更新は困難であるため、今後不具合の都度対応予定である。</p> <p>2. 放射性物質を扱う実験環境を提供することに止まらず、当センターでは放射線や放射性物質の知識を普及させるため毎年講義を行ってきた。2019年秋学期に大学院応用生物学研究科の科目「細胞・ゲノムエンジニアリング研究法特論」の一環として施設見学を実施した[1120a]。</p>

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1110・1120	発生時期が予想できない大地震や法令対応用機器の不具合に備え、非常時の運用方法や業務分担を検討し、安全管理体制を強化する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	2019年度 維持管理簿 ほか13種類の帳簿	△
1110	b	令和元年度 管理状況報告書	△
1120	a	2019年度 中部大学アイソトープセンター 活動記録	○
1120	b	2019年度 中部大学アイソトープセンター放射線安全委員会 議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	実験動物教育研究センター
--------	--------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1) 研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1110	毎年5月に研究推進事務部あて提出する事業計画に年度重点目標を記載し[1110a]、それに基づいて研究推進を行っている[1110b]。また、秋にセンター所属教員の翌年度の研究について検討し、学内 特別研究費（教育技術員）[1110c] 及び日本学術振興会 科研費（助教）の申請書に基づいた研究を行っている[1110d]。
1120	毎年2月頃に定例の動物実験委員会を開催している[1120a]。また、定期的に職員間で管理体制の整備に向けた会議を行っている。さらに、動物実験計画書の立案、審査、承認について、動物実験委員会を通し適正に審議されている。複数年度にまたがる計画については、年度毎に継続審査が行われている。2019年度は、85件（応用生物学部25件、生命健康科学部59件、工学部1件）の動物実験計画書の申請がなされ、動物実験委員および動物実験委員会専門委員による厳正な審査を経て承認している[1120b][1120c]。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1110	細胞を傷つけず熟練技術不要な電気穿孔法によるゲノム編集でマウス受精卵の染色体の遺伝子操作に成功している (Iwata et al., <i>Scientific Reports</i> , 2019, 9(1), 1-8) [1110e]。
項目 No. 1120	動物センター内で会議を適宜実施することで施設運営に掛かる重要課題を抽出し、動物センター職員間で問題意識の共有化を図っている。
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1110	ゲノム編集技術の効率化。
項目 No. 1120	職員の労働環境改善について、粉塵等、改善を行う。
項目 No. 1120	利用者への定期的な教育訓練（利用者講習会、実技講習会）の実施。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1110	2019年10月11日、電気穿孔法を用いたゲノム編集技術により、世界で初めてマウス受精卵の染色体改変に成功したとして英科学誌 Scientific Reports（電子版）に研究成果を報告した[1110e]。本成果は、本学web siteにてプレスリリースすると共に[1110f]、大学ジャーナルオンラインにも掲載された[1110g]。
1120	職員の労働環境改善のため、業者による空調 airflow 調査および風量等の調節、センター予算内での脱臭機や芳香剤の設置努力により、臭気はやや改善した。
1120	センター利用者のための動物実験実技講習会を実施すべく動物実験計画書を立案し、動物実験委員および動物実験委員会専門委員により承認された[1120d]。対象年度は受講希望者がいなかったため、実技講習会の実施には至っていない。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1110	ゲノム編集技術の更なる効率化。
1120	動物愛護法の改正（2019年6月19日公布、2020年6月1日施行）に伴う措置として、全利用者への講習会を実施する。
1120	職員の労働環境改善について、粉塵等、引き続き改善を行う。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	動物センター1110a：2020年度事業計画・予算案様式	○
1110	b	動物センター1110b：2019年度 活動状況等報告	○
1110	c	動物センター1110c：2019_特研報_長原	○
1110	d	動物センター1110d：2019_若手研究_岩田	○
1110	e	動物センター1110e：2019_SciRep	○
1110	f	動物センター1110f：2019_SciRep_プレスリリース	○
1110	g	動物センター1110g：2019_SciRep_大学ジャーナルオンライン	○
1120	a	動物センター1120a：2019年度 第1回 動物実験委員会議事録	○
1120	b	動物実験計画書審査議事録	△
1120	c	各利用者の自己点検票および研究成果報告書	△
1120	d	動物センター1120d：2019_センター利用者のための実技講習会_201910016	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020年度（対象年度：2019年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	天文台
--------	-----

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1) 研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	S
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1110	天文台の目的等を定めた天文台規程に基づき、天文学だけに限らない幅広い自然科学に関連した研究・教育・連携活動を行なっている。[1110a] [1110b]
1120	活動計画等についての審議、および活動実績について、またその達成状況を検証するために、天文台運営委員会を開催している。[1120a]
1120	年度ごとの活動報告書を作成し、研究戦略委員会に報告している。[1110b]
長所・特色 < 箇条書き > *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1110	全般的に研究と教育が結びついた活動が出来ている。[1110b] 星空かんさつ会、観望会、講演会等を開催し、地域社会に貢献している。[1110b] 理系文系の多くの学生が参加している。[1110b] 天体観測所は全学的な正課授業に活用されている。[1110b]
項目 No. 1120	理系文系に関係なく、各学部学科から教員が運営委員として参加している。[1110b]
課題事項 < 箇条書き > *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1110	ホームページ等を利活用した学内外への情報発信。
項目 No. 1120	天文台所員スタッフ間の情報共有と意見交換を通じた日常的かつ持続的な業務の見直し。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1110	1120：日常的には、天文台運営委員会へのメーリングリストによる情報共有と意見交換を行い、教育、研究、地域連携活動を実施し、その振り返りを通じてそれらの活動の効果検証と改善を図っている。しかし、その活動全体を「見える化」は十分とは言えない。年度末の天文台運営委員会で、当該年度の活動状況を審議して活動を点検評価したうえで、次年度以降の活動計画を立てているが、その実施体制は必ずしも十分とは言えない。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1110	ホームページ等を利活用した学内外への情報発信と、外部資金のさらなる獲得、ならびに研究成果のアウトプット。
1120	運営委員会議事録等の的確な作成。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	天文台規程	○
1110	b	天文台活動報告	○
1120	a	天文台運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020年度（対象年度：2019年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	中部高等学術研究所
--------	-----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1110 中部高等学術研究所は、研究所規程において「国内外の研究者及び研究機関の有機的な連携のもとに、国際的、学術的な共同研究を行い、大学における学術研究及び高等教育の深化、発展に資するとともに、優秀な若手研究者を育成すること」を目的とする。[1110a] この目的を達成するために、年度初めに事業計画を策定し、新たに地球未来社会設計研究会を設置するなど重要事項を、所員会議にて承認を得ている。[1110b] 年度途中で計画変更の必要が生じた場合には、修正案を所員会議にて審議し、承認を得ている。[1110c] 2019年度においては、新型コロナウイルスの影響で予定していた国際シンポジウムを延期せざるを得なかった。	
1120 所員会議の開催の折には、事前に日程調整を行い、議事録案を作成し、次回所員会議内にて議事録案の承認を行っている。[1120a] 所員会議を開催しない時期の審議事項についてはメールでの審議を行い、研究所運営を遅滞なく進めている。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1110	事業計画を所員会議にて承認している。研究所内および学内外の研究者を加えて一丸で取り組む、地球未来社会設計研究会を毎月実施し、研究上のコミュニケーションを活性化させている。
項目 No. 1120	所員会議を開催しない時期の審議事項についてはメールでの審議を行い、研究所運営を遅滞なく進めている。
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	所員会議の開催回数が年1回で終わってしまった。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、

第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1110	自己点検・評価によって、事業計画に基づいた研究所運営を行うべきという認識が所員に根付いてきている。当初の計画外の活動を行う際には、事業計画修正案を所員会議あるいはメール審議にて承認を得てから実施することになっている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
1120	メール審議の方法については確立されていなかったが、今後は「中部大学 学内委員会等諸会議運営に関する申合せ」に則り執り行う。[1120b]

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	中部大学中部高等学術研究所規程	○
1110	b	事業計画・予算 (中部高等学術研究所) 2019 年度_20190326 承認	○
1110	c	事業計画・予算 (中部高等学術研究所) 2019 年度_20190724 修正承認	○
1120	a	2019 年度第 1 回所員会議議事録	○
1120	b	中部大学 学内委員会等諸会議運営に関する申合せ	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際 ESD・SDGs センター
--------	------------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1) 研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1110	国際 ESD・SDGs センター運営委員会において活動計画を報告し、委員間で意見交換を行い、計画を実施している [1110a] [1110b]。
1110	国際 ESD・SDGs センターは、中部高等学術研究所の付置センターであるため、センター内で立案した事業計画や運営方針等は、中部高等学術研究所所員会議において報告し、意見交換を行っている [1110c]。
1120	国際 ESD・SDGs センター運営委員会では、センター所属教員に加えて、学内全 7 学部からの選出委員が運営委員会においてセンターの活動内容の点検をおこなっている [1120a]。
1120	国際 ESD・SDGs センターの社会貢献活動である中部 ESD 拠点協議会活動は、中部 ESD 拠点運営委員会および実施事業「中部サステナ政策塾」の評価会議において評価を行った [1120b]。
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1110	学部横断型の全 7 学部から選出された委員による運営委員会での活動内容の点検 [1110a] [1110b] [1120a]。
項目 No. 1120	地域連携活動（中部 ESD 拠点）における多様な主体の参加による評価会議の開催 [1120b]。
課題事項 << 箇条書き >> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1110	年度後半に実施した計画外の活動（春日井市との連携事業）に関する運営委員会への報告が遅れた [1120a]。
項目 No. 1120	当センターの学内活動と地域連携活動を関連付けた成果に関する評価が必要。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、

第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
<p>国際ESD・SDGsセンターでは、シンポジウムおよび発表会の諸行事開催後に、教員・研究員・事務員の参加による「評価・反省会議」を開催した。会議では、企画内容・スケジュール・行事運営方法・予算執行等についての活動評価および問題点の改善に向けた意見交換を行った。</p> <p>当センターが事務局を担う中部ESD拠点協議会では、2019年度の中部サステナ政策塾の活動について、年度末に事業の評価会議を開催した。評価会議では、事務局スタッフおよび顧問の教授陣で自己評価をおこなうとともに、塾生および新規塾生候補の若者などから外部評価を受け、次年度実施に向けた改善策を検討した(1120b)。</p> <p>なお、昨年度の自己点検・評価で予定した、本学におけるSDGs活動評価は実施に至らなかったために、次年度の活動計画に明記することとした。</p>

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
1110	国際ESD・SDGsセンター運営委員会において、学内のESD/SDGs活動評価情報を収集して取りまとめる。
1120	SDGs活動に関する大学全体の評価を行い、国際的な大学評価システムに登録を行う予定である。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	国際ESD・SDGsセンター2019年度第1回運営委員会議事録	○
1110	b	国際ESD・SDGsセンター2019年度第2回運営委員会議事録	○
1120	a	国際ESD・SDGsセンター2019年度第3回運営委員会議事録	○
1110	c	中部高等学術研究所2019年度事業計画	○
1120	b	中部ESD拠点「中部サステナ政策塾」2019年度評価会議	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	中部高等学術研究所国際GISセンター
--------	--------------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1)研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
1110・1120 「国際GISセンター規程」、「国際GISセンター運営委員会規程」、「国際GISセンター「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」共同利用委員会規程」により、研究活動の指針、及び持続的な業務内容の点検について規定している。
1110 2019年3月開催の中部高等学術研究所所員会議にて「研究に係る事業計画と予算の提案」を提案、承認し [1110a]、2019年7月開催の中部高等学術研究所所員会議にて同提案の修正を提案、承認することにより [1110b]、単年度の研究・予算計画等について規定している。
1110 特に、「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」活動については、2019年3月に文部科学省学術機関課に提出の「平成31年度実施計画書」において、単年度の研究・予算計画等について規定している [1110c]。
1110・1120 2019年7月に国際GISセンター運営委員会を開催し、委員による議論により、2019年度の研究活動の報告・今後の方針の確認と、組織・体制の点検を行った [1110d]。
1110・1120 特に「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」活動については、2019年6月に学外委員が半数以上を占める共同利用委員会（オンライン）により、2019年度の共同研究推進内容の審議を行った [1110e]。また、2020年2月に、2019年度の共同研究成果を総括する成果報告会を開催すると同時に、共同利用委員会を開催し、2019年度の拠点活動、及び2020年度の研究活動の方針の確認と、組織・体制の点検を行った [1110f]。

1110・1120 「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」活動については、2020年6月に「2019年度実施状況報告書」を、文部科学省学術機関課に提出を予定している [1110g]。(2014年の拠点認定から毎年「実施状況報告書」を作成・提出し、拠点としての研究活動及び業務内容の点検を行っている。)	
1110・1120 「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」活動については、2019年11月に、2014年の拠点認定からの活動を対象とする「期末評価報告書」を文部科学省学術機関課に提出 [1110h]、2020年2月にヒアリング審査を受け、「A：拠点としての活動は概ね順調に行われており、関連コミュニティにも貢献していると判断される」という評価を受け [1110i]、2020年度から2025年度までの期間についても再認定を受けた [1110j]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1110・1120	共同利用・共同研究拠点としての運営体制・研究活動について、学外委員が半数以上を占める共同利用委員会、及び文部科学省から高い評価を受けている。
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1110・1120	国際GISセンターとしての研究活動について、当初研究計画に基づいた予算の執行と、進捗状況に応じた適切な柔軟性を持った執行とのバランスが求められる。
項目 No. 1110	研究組織としての、国際共同研究への取り組み、研究拠点の連携を図るネットワーク化、分野の将来を担う人材の育成を重点的に推進することが求められる。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1110	中部高等学術研究所、並びに国際GISセンター規程の見直し、及び「事業計画と予算案」の見直しを随時行うことにより、当初研究計画と進捗状況に応じた適切な柔軟性のバランスの取れた事業推進に取り組んでいる [1110a] [1110b]。
1120	これまでの共同利用・共同研究拠点としての活動について文部科学省から評価され [1110i]、「共同利用・共同研究拠点（特色ある共同利用・共同研究拠点）」の再認定を受けることができた [1110j]。さらに国際共同研究への取り組み、研究拠点の連携を図るネットワーク化、分野の将来を担う人材の育成を重点的に推進するために、共同利用・共同研究拠点のための文部科学省補助金「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業～機能強化支援～」への応募を行った [1120a]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1110・1120	平素から所内教員のコミュニケーションを図るとともに、所外の人的資源とも交流し、センター長主導で、当初研究計画と進捗状況に応じた適切な柔軟性のバランスの取れた事業推進を行う。
1110	2020年度応募内容を基盤にさらにブラッシュアップし、「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業～機能強化支援～」の採択と推進を目指す。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	「研究に係る事業計画と予算の提案2019年3月承認」	○
1110	b	「研究に係る事業計画と予算の提案2019年7月修正承認」	○
1110	c	「平成31年度実施計画書」	○

※1110	d	国際GISセンター運営委員会議事録	○
※1110	e	研究課題評価一覧	○
※1110	f	共同利用委員会議事録	○
1110	g	「平成30年度実施状況報告書」	○
1110	h	「期末評価報告書」	○
1110	i	「期末評価結果」	○
1110	j	「共同利用・共同研究拠点の認定について」	○
1120	a	「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業～機能強化支援～申請書」	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	総合工学研究所
--------	---------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1) 研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1110	研究課題の募集、学内外の人を対象とした講演会の開催、研究課題で採択された研究の成果を年度末の研究発表会で報告し（2019年度は新型コロナウイルス感染対策のため延期）、紀要「総合工学」として Web で公開している。 [1110a] [1110b] [1110c] [1110d] [1110e]
1120	運営委員会を開催し、活動方針、活動計画等を審議し決定している。 [1120a]
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1110	研究課題は、書類審査および面接（プレゼン）にて審査する。 [1110b]
項目 No.	研究課題が採択された研究員は、未申請研究課題で科研費に申請する。
課題事項 << 箇条書き >> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.	特に無し
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組	* 成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
------------	--

1120 研究員は更なる向上を目指し、今後の外部資金を獲得すべく研究費を活用している。[1110a]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1110	それぞれの研究員が更なる大きなプロジェクト予算を獲得するよう研究を進める。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	総合工学研究所 研究課題	○
1110	b	総合工学研究所 研究課題の募集について	○
1110	c	総合工学研究所 講演会	○
1110	d	総合工学研究所 研究発表会	○
1110	e	紀要「総合工学」	○
1120	a	総合工学研究所 第1回運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	生産技術開発センター
--------	------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	(1) 研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的に沿った研究推進を計画的に進めていますか。 ・年度重点目標の設定	A
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1110、1120 中部大学生産技術開発センター（以下 [センター] という。）は、活動内容ならびに運営方法などを定めたセンター規程に基づき、生産技術に関する研究開発を産学が協力して行い、もって大学の発展と地域社会に貢献することを目的として活動を行っている [1110a]。当年度 2 回開催された運営委員会においては、活動方針、活動計画等を審議し、決定するとともに、活動成果および目的達成状況について検証した [1120a] [1120b]。現在、自己点検評価の基準は特に設けていないが、運営委員会における審議が自己点検・評価の機会に相当し、毎回議事録を作成し、保管している [1120a] [1120b]。また、毎年、学内外に向けてセンター講演会（9 月） [1110b] と研究発表会（3 月） [1110c] を開催するとともに、年度末にはセンター研究プロジェクトの成果と研究業績を年次報告書にまとめて Web で公開し、第三者による客観的な点検・評価の機会としている [1120d]。	
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1110 No. 1120	センター所属研究員は競争的資金に応募し、採択実績も相当数に上り、これらの実績をまとめる [1120c] とともに、得られた研究成果は Web で公開している [1120 d]。
項目 No. 1110	センター独自の講演会（9 月）と研究発表会（3 月）を開催し、生産技術に関する最新かつ有用な情報を提供し、毎回企業から多数の参加者を得ている [1110b] [1110c]。
項目 No. 1110	プロジェクト研究は企業との連携研究が多く、研究に参加する大学院生や卒業研究生にとって実践的教育の場が提供されている [1110f]。
課題事項 << 箇条書き >> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1110	新規研究分野の応募と採択に努め、研究活動の活性化を図る。
項目 No. 1120	運営委員会の自己点検・評価機能を向上させる。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1110、1120	センターにおける研究課題ならびに研究員（学外研究員を含む）は、毎年公募し、4件程度を採択している。2019年度の募集および選考方法は、外部の競争的資金に採択された研究者や申請者を優先し、採択課題（2019年度は4課題）をセンター運営委員会にて選考し、センター長が決定した[1110d] [1110e] [1110f]。研究課題選考の結果、新たな領域として宇宙航空分野のテーマが1件採択された[1110f]。一方、産学連携による講演会を9月に開催し、61名の参加があった[1110b]。また、2020年3月には研究発表会の開催を計画し、参加募集していたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止とした[1110c]。 上記活動の成果については、現時点で明確な基準を設けて点検・評価を行っているわけではないが、センターホームページにてWeb公開するとともに、運営委員会において運営および活動状況について審議（点検・評価）している[1120a] [1120b]。また、センター研究員は研究推進と外部資金の獲得に努めた[1120c] [1120d]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1110	2019年度は、宇宙航空分野の生産技術に関する研究テーマが新たに加わったが、さらに新しい分野の研究課題を発掘し、研究活動の活性化を図る。
1120	センター運営委員会の自己点検・評価機能の向上を図るとともに、成果を公表し、活動の検証過程を明確化する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	中部大学生産技術開発センター規程	○
1110	b	2019年度生産技術開発センター講演会プログラム・案内状	○
1110	c	2019年度生産技術開発センター研究発表会プログラム・案内状	○
1110	d	2019年度生産技術開発センター事業計画と予算案	○
1110	e	2019年度生産技術開発センター研究員募集要項	○
1110	f	2019年度生産技術開発センター研究課題一覧表	○
1120	a	2019年度生産技術開発センター運営委員会議事録（第1回）	○
1120	b	2019年度生産技術開発センター運営委員会議事録（第2回）	○
1120	c	2019年度生産技術開発センター活動報告書	○
1120	d	2019年度生産技術開発センター年次報告（Web版）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育技術部
--------	-------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 中部大学工学部教育技術部（以下 [技術部] という。）は、従来の教育技術センターに変わり、2017 年度から新たに発足し、その目的、活動内容および運営方法等は技術部規程に定められている [1120a]。2019 年度は、技術部長を議長とし、工学部 3 役（学部長、副学部長、学部長補佐）に系長を加えたメンバーによる運営委員会を隔月開催し、活動計画およびその実施状況等を審議するとともに目標達成度を検証した。また、運営委員会を開催しない月は技術部長が系長会議を招集し、実務管理者による活動の点検・評価を行った。いずれの会議も審議内容は毎回議事録を作成し、関係者に配付するとともに保管している [1120b] [1120c]。また、7 月に全体会を開催し、3 月には個人面談を実施し、全部員の活動状況の把握を行った [1120d] [1120e]。年間活動計画を 4 月に策定し、翌年 3 月にその活動報告をまとめて運営委員会に報告した [1120f]。年度末の 2020 年 3 月に開催を予定していた報告会は、新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。予定していた発表内容は 2019 年度報告書に収録し、保管している [1120i]。1 年間の活動は「2019 年度中部大学工学部教育技術部報告 VOL. 21」にまとめ、点検・評価資料とした [1120i]。評価基準は特に定めていないが、上記会議等の審議を通して日頃から自己点検・評価を行っている [1120b] [1120c]。	
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	運営委員会、系長会議、全体会を開催し、情報の共有と活動の点検・評価を行っている [1120b] [1120c] [1120d]。
項目 No. 1120	実習等の安全意識向上と具体的対処法修得のため、安全教育講習（実技付）を実施した [1120g]。
項目 No. 1120	技術部活動内容の対外的情報発信の機会として中部大学フェア 2019 に出展した [1120h]。
項目 No. 1120	年度末に個人面談を行い、所属部員個々の状況把握を行うとともに、教育・研究面で質の高い技術支援ができるよう環境の整備に努めている [1120e]。
項目 No. 1120	年度末に技術部発表会を開催（2019 年度は計画したが、新型コロナウイルス感染拡大により中止）し、活動成果を公表するとともに年次報告書を発行し、点検・評価資料としている [1120i]。

課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 1120	運営委員会、系長会議の定期開催によって概ね全体的な活動の点検・評価体制は整ってきたが、今後は個々の活動の点検・評価による全体業務の改善・向上策を検討したい。
項目 No. 1120	活動内容および成果の更なる情報発信方法の改善策として、技術部の公式ホームページの開設を進めたい。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120	教育技術部の設置および活動の目的はその規定に記されている通りであるが、専門分野により4つの系を設け、各系に系長を置き、教育研究支援業務を推進している。従来、部員個別の月報により活動計画の進捗状況を管理していたが、2018年度からは、各系における年間計画と重点目標を系長が取りまとめ、系毎に主体性を持って組織的運営ができるようにした[1120f]。これによって系長の管理面での能力向上と個々の部員の仕事量の平準化を図るとともに、その進捗状況は運営委員会および系長会議で点検・評価できる体制が整いつつある[1120b][1120c]。2019年度の新たな取組みとして、安全教育講習の実施と中部大学フェアへの出展を行い、実験実習教育の安全性向上と活動の対外的な公表の機会を拡大を図った[1120g][1120h]。年度末には年間計画の進捗状況および目標の達成状況を取りまとめ、技術部年次報告書を発行した[1120i]。客観的な評価・点検は工学部3役を加えた運営委員会において行い、技術部内での自己点検・評価は系長会議において相互チェックの形で実施している[1120b][1120c]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	技術部全体の活動状況を見える化し、部員個々のスキルの多能化を図り、系の枠組みを越えて技術部全体としての業務協力体制を構築し、教育支援業務の向上と業務効率化による部職員の負担軽減を図る。
1120	技術部の活動を点検・評価し、その活動を持続的に向上、発展させるため、運営委員会および系長会議の機能を有効活用する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学工学部教育技術部規程	○
1120	b	2019年度教育技術部運営委員会議事録	○
1120	c	2019年度教育技術部系長会議事録	○
1120	d	2019年度教育技術部全体会議事録	○
1120	e	2019年度教育技術部個別面談日程表	○
1120	f	2019年度教育技術部年間計画	○
1120	g	2019年度安全教育実施案内	○
1120	h	2019年度中部大学フェア	○
1120	i	2019年度教育技術部報告 Vol. 21	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部事務室
--------	-----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、継続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 国際関係学部の教育研究活動・管理運営が的確かつ円滑になされるために、各週の定例ミーティング、学部の主任会議に事務長と担当課長も同席し、毎回の教授会の議題確認のほか、必要に応じて提案も行った。また、国際関係学部教授会においては、学部長の求めにより、事務長からも適宜報告を行った[1120a・b]。 1120 国際人間学研究科の教育研究活動・管理運営が的確かつ円滑になされるために、研究科の専攻主任連絡会に事務長と担当課長も同席し、毎回の研究科委員会の議題確認のほか、必要に応じて提案も行った。 [1120c・d]	
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	学部の主任会議開催以外の週は、できる限り役職者をメンバーとした定例ミーティングを開催し、事務長と担当課長も同席し、学部運営、授業関連、学生対応等について詳細に連絡を取った [1120e]。
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	特記事項なし
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120	特記事項なし

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	新型コロナウイルスを機に実施を開始した遠隔授業について、教員と学生が円滑に進めていくために必要な環境作りや連絡等のサポートを事務室として最善を尽くすよう取り組む。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2019 年度第 1 回～第 11 回国際関係学部主任会議議事録	○
1120	b	2019 年度第 1 回～第 13 回国際関係学部教授会議事録	○
1120	c	2019 年度第 1 回～第 10 回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○
1120	d	2019 年度第 1 回～第 10 回国際人間学研究科委員会議事録	○
1120	e	2019 年度定例ミーティング開催通知	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学部事務室
--------	------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 事務分掌に則り、業務の改善・向上については、日々の業務の中で随時取り組んでいる。また、毎年3月の人事考課面接時に翌年度の事務室重点目標を事務長から課員に提示し、課員の業務目標設定の一助としている[1120a]。 1120 委員会活動について、事務室は小さな組織であるため特に事務室としての委員会を開催していないが、学部長・研究科長主導のもと学部・研究科として開催する教授会、主任会等、研究科委員会の各種委員会については、事務長が会議開催、議事録作成等で適切にサポートを行っている。[1120b]	
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	迅速倫理審査の事務処理を滞りなくできている[1120c]。
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.	特になし
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組	* 成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
------------	--

1120 今後は年度重点目標を明文化した上で、人事考課面接時に課員と掘り合わせを行い、実質的な目標設定を行うよう努める。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
	特になし

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	事務分掌 (生命健康科学部分)	○
1120	b	教授会・研究科委員会議事録	○
1120	c	倫理委員会迅速審査受付簿 2019	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	キャリア支援課
--------	---------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	就職活動の在り方が変化していく中、毎年行っている3月の学内企業説明会を廃止し、2月の業界研究会に変更することが就職活動の良いスタートとなると考え、キャリア委員会で審議し承認を得て変更することができた。[1120a]
1120	UIJ ターン就職の強化を図るため、新たに富山県との就職協定の締結についてキャリア委員会で審議し承認を得て締結することができた。[1120b]
1120	2018 年度にインターンシップ C の科目新設と、インターンシップ B, C の成績評価を認定評価へ変更したことに伴い 2020 年度以降のインターンシップ B, C のシラバスの内容と認定評価の基準を 2019 年度インターンシップ推進委員会で審議し、整備することができた。[1120c]
1120	2018 年度職業紹介業務運営規定、無料職業紹介事業に伴う個人情報適正管理規定を制定し、キャリア支援課で学生が面談を受ける場合の条件である、進路希望表の提出の有無を受け付けで確認し、面談時にも確認し、さらに面談シートにチェック項目を作り、不備のないように取り組んでいる。[1120d]
1120	社会で活躍する先輩との交流を通して職業観を養い、さらに伝統ある大学の就職サイクルを構築することを目的に行っている「ようこそ先輩」を、日時を考慮して開催することで多くの学生を集めることができ(2018 年度 214 名→2019 年度 393 名)、行事を定着させる足がかりを作ることができたと考える。[1120e]
1120	新型コロナウイルスの影響を考慮し、緊急性の高い事案について適切に各委員会で審議し、対応策を実行することができた。[1120f]
長所・特色 < 箇条書き > *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	理系、文系、資格系分科会を通じて教職協働で就職支援が来ている。[1120g]
課題事項 < 箇条書き > *改善すべき点、向上すべき点	

項目 No. 1120	企業との関係を強化するため、企業訪問回数を増やす必要がある。
-------------	--------------------------------

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	課内の重点目標として、既存の業務の効率化に経年で取り組んでいるが、課員から申し込み時間の変更など些細な工夫で大きな業務時間の短縮につながったケースもあり、それ以外にも相談を受けるケースが増えており課員の意識の変化と協力を得ることができてきており、重点目標として継続する必要がある。
1120	学生の利便性と、就職斡旋の仕組みを作るためシステムの見直しを含め J-NET 社と協議を継続しているが、実現するために多くの課題があり、継続して協議していきたい。
1120	2019 年度内部監査により指摘を受けた項目の改善を 2020 年度に完了する。
1120	就職支援に関する学生調査は、J-NET のシステムが活用できる準備が整ったため、2020 年度内に行う。
1120	新型コロナウイルスの影響を考慮し、課員の安全確保に努めるため、マスクの確保、WEB 面談の仕組み等を考えて実行することができた。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	「企業との就職交流会」を継続する。
1120	学生調査を 2020 年度内に行う。
1120	J-NET システムの見直しを継続する。
1120	インターンシップ C の受け入れ企業の準備を行う。
1120	夏季休業期間を活用して、企業訪問を課員で分担して行う。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2019 年度第 2 回キャリア委員会審議資料（2021 年 3 月卒業予定者対象企業説明会の開催について） 2019 年度第 2 回キャリア委員会議事次第	○
1120	b	2019 年度第 3 回キャリア委員会審議資料（富山就職協定書） 2019 年度第 3 回キャリア委員会議事次第	○
1120	c	2019 年度第 2 回インターンシップ推進協議会審議資料（インターンシップ BC 単位認定基準） 2019 年度第 2 回インターンシップ推進委員会審議資料（2020 年度インターンシップ BC シラバス案） 2019 年度第 2 回インターンシップ推進委員会議事次第	○
1120	d	職業紹介業務運営規定による進路希望表の提出チェック方法	○
1120	e	2019 年度ようこそ先輩_リーフレット_最終 2019 年度ようこそ先輩アンケート集計結果	○
1120	f	2019 年度キャリア委員会メール審議 2019 年度キャリア委員会メール審議結果 2019 年度「緊急」インターンシップ推進委員会メール審議 2019 年度キャリア委員会メール審議結果	○
1120	g	2019 年度理系・文系・資格系分科会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	入学センター事務部 入試広報課
--------	-----------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	(1)については、入試結果、募集活動の結果を振り返り、次年度に向けた学生募集活動計画表[1120 a]を年度初めに策定し、募集活動のベースとしている。日々朝礼を実施し、業務の進捗確認、催事の対応結果を報告するなど情報共有するとともに改善点などについて意見交換を行なっている。
1120	(2)については、入学センター会議を年に7回開催。開催手続き、議事録作成手続きは適切に行なっている。委員会では年度初に学生募集活動計画表[1120 a]を諮り、以後は催事等の事前確認や実施後の振り返りなどが内容の中心であるが、対応が必要な事項がある場合は、随時検討等行なっている。入学試験終了後は、志願者数[1120 b]、接触者数[1120 c]を算出し経年の変化等も含め振り返りを行っている。
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	毎日の朝礼により情報共有等を行なっている。
項目 No.	
課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	志願者数（実人数）の向上、接触者中志願者の割合向上
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120	夏オープンキャンパスにおいて、できるだけ長い時間滞留してもらい本学への理解をより深めてもらう目的で2019年度はランチを無料化した。[1120d] 志願者数（実人数）の向上のため、業者保有の個人情報を活用してDMを送付した。[1120e]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	志願者数（実人数）の向上 入学者安定確保の観点から、延べの志願数よりもむしろプロパー数（実志願者数）の向上に努めてきた。2020年度は9,900人となり過去最高となった。次年度は10,000人超を目標とする。
1120	WEBコンテンツの充実 来学してキャンパスを体験してもらうことが難しい状況となり、遠隔地からでも本学の理解を進めてもらえるようコンテンツ作りを進める。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	入学センター1120a：2019年度学生募集活動計画表（案）.pdf	○
1120	b	入学センター1120b：2003-2020 志願者推移.pdf	○
1120	c	入学センター1120c：2017-2019 接触者状況.pdf	○
1120	d	入学センター1120d：2019 夏オープンキャンパス_guide	○
1120	e	入学センター1120e：AO案内.pdf	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	入学センター事務部 入試事務課
--------	-----------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、定期的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	「入試・選抜委員会」を年に12回開催している。年度始めにその年度に実施する入学試験日程、入学試験要項について諮った上で、各入試終了後に開催する「入試・選抜委員会」にて公正な入学者選抜を実施し、議事録を作成している。[1120a] [1120b] [1120c]。 1120 「入試・選抜委員会」にて承認された当年度の入学試験日程、入学試験要項に基づき、課員はそれぞれ担当の入試について主体的に日々の業務を進めている。毎日の朝礼や不定期の課内ミーティングにて業務の進捗確認、入試の準備状況等について情報共有をすると共に、改善点についても積極的に意見交換を行っている。また入試業務にとどまらず、入試時期以外は高校訪問や説明会、講師派遣等で各方面に出向き、広報活動及び入試に関する高校側のニーズの収集に努めている。
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	毎朝入学センター内で朝礼を行い、行事・出張等のスケジュール確認や入試の準備状況などについて情報共有・周知を行っている。また、広報活動で外に出ることも多いため、ガールーンを積極的に利用し情報共有を図っている。
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	これまで以上に業務効率を高めた入試業務の運営。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、

第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 ※成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	2018 年度に導入した願書受付・入学手続きにかかる外部委託については 2 年目となり、今年度は大きな問題なく完了することが出来た。今後も気を緩めることなく、より精度を高めていきたい。 また、今年度から学校推薦型入試についても全面的にインターネット出願を導入し、すべてのインターネット出願についてオンライン受験票発行および写真データ取り込みを行うことで、受験生の利便性向上および業務・経費削減に努めたい。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
1120	オンライン受験票および写真のデータ取り込みの導入

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2020 年度入学試験日程	○
1120	b	2020 年度入学試験要項	△
1120	c	入試・選抜委員会議事録	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	臨地実習推進事務課
--------	-----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 臨地実習推進事務課の自己点検・評価活動、検証活動は、次のように行っている 〔推進部運営委員会〕 各実習センターの活動状況、課題と目標、自己点検・評価を検証すること等を目的とし、年2回開催している。各実習センターでは、それぞれ計画的に自己点検・評価活動を行っているが、他の実習センターの自己点検・評価活動を知る機会は少なく、合同会議の場で意見交換する機会は非常に有効である。【根拠資料 1120.a】 〔各実習センター運営委員会への出席〕 各実習センターで行っている運営委員会に可能な限り出席し実情をとらえる。議事録を取りまとめ、必用に応じてセンター間の連絡調整等に関わり、臨地臨床実習の円滑な実施、実習先との関係強化に努めている。	
長所・特色 < 箇条書き > *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	各実習センターの間で潤滑油的な役割を果たし、実習の円滑な遂行に努めている。
課題事項 < 箇条書き > *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	各実習センターの点検・評価活動及び検証で出てくる、課題・問題点・検討事項等をいかに的確に他の関連部署に伝え、共有していく意識に努めていく。
項目 No. 1120	実習先との連携強化、安定した関係の構築。
項目 No. 1120	専門職者として医療現場を中心に働いている卒業生とのネットワークづくり。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	実習先とのリレーションは、各実習センターあるいは教員が行っているが、大学の行事・講演会等の案内、各実習センターの教育セミナーの案内など、側面的・多角的に関係維持強化に努めている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
項目 No. 1120	<p>臨地臨床実習に係る、全国的な動向、同様な医療系その他大学の動向、近隣大学の動向などを常に注視して行くことが、ますます重要となってきている。</p> <p>また、2019年度末から急激に拡大した「新型コロナウイルス感染症」への様々な対応も、大きな課題となっている。</p>
項目 No. 1120	<p>医療現場を中心として働く卒業生が多く、有効なネットワークづくり、中部大学ファミリーづくりを目指して行く。</p>

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
No.1120	a	2019年度 臨地実習推進部運営委員会	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	看護実習センター
--------	----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>
<p>1120 看護実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は以下のように行っている</p> <p>〔専門実務ワーキング会議〕 センター活動の企画・運営・検証・他部署との調整等について話し合う会議で、年4～5回程度開催。定例だが、必要に応じて臨時で開催することもある。職位・専門領域が偏らないようメンバーを構成し、毎年半数ずつを更新しながら継続性に配慮している。【根拠資料 1120.a】</p> <p>〔運営委員会〕 学部及び学科の幹部とセンター長/副で構成され、年1回以上開催。年間の活動を総括し、現状・課題・目標・方向性等を話し合う。【根拠資料 1120.b】</p> <p>〔実習連絡会議〕 担当教員・実習責任者が各実習先に出向き、実習先の指導者・責任者と実習前・後にそれぞれ1回以上行う。2019年度は延べ180回以上行い、その記録は実習科目責任者・実習センター長/副の確認後、いつでも閲覧できるよう事務室で管理している（注：一部抜粋/部外秘）。更に、在宅看護領域は、実習先の指導責任者と大学においての会議も行っており、指導者間の情報交換の場ともなっている。【根拠資料 1120.c】</p> <p>臨地実習は常に実習先からの点検・評価を受けている。実習の安定的な継続には、相互の理解と多角的な点検・評価は欠かせないため、実習連絡会議は重要な枠割を果たすものである。</p> <p>〔必要に応じて臨時に開催する専門会議〕 2020年になって急速に拡大した「新型コロナウイルス感染症」は、看護実習への影響は計り知れないものとなった。学科と実習センター合同による対策会議を設け、実習先及び他大学の状況の把握とそれらの情報共有に努め、各領域の状況と対応について協議し、大学の対策本部と連携を取りながら、迅速かつ有効で実行性のある対策を検討協議した。以降も必要に応じて随時開催していくこととした。【根拠資料 1120.f】</p>

<p><臨地実習中に起きたインシデント・アクシデントに関する自己点検・評価> 医療関連実習では重要な検証の一つであり、記録方法・内容等を常に見直しながらファイリングし、関連する教員の確認を経、事務室で管理し、必用時に閲覧できるようにしている。【根拠資料 1120.d】注：部外秘</p>	
<p><看護実習センターが行う行事についての自己点検・評価> 看護セミナー・臨地実習施設説明会では必ずアンケートを実施し、その都度検証・分析し、以降の行事及び臨地実習にも活かしている。【根拠資料 1120.e】</p>	
<p>長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No.1120	議事録・事故報告書等の記録方法・形式は、後の検証のため形骸化しないよう常に注意している。また、関係する教員・部署の確認の徹底にも注意している。
<p>課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No.1120	実習先からの要望への対応(1) 学生の感染症・抗体価検査・個人情報保護等に対する内容・基準が、年々厳しくなっており、対応に対して細心の注意を払っている。
項目 No.1120	実習先からの要望への対応(2) 実習先で指導対応にあたる本学の教員の人数が、実習施設の安全管理・事故防止等の観点から増員を求められる傾向にある。条件が満たされない場合、撤退を余儀なくされることもある。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
1120	<p>実習先からの要望への対応(1) 多様化する要望に応えるため、高い基準で対応できるよう毎年見直しを行っている。さらに、先方と連絡・調整することで現状を把握・分析し、今後の指針としている。</p> <p>実習先からの要望への対応(2) 本学の教員数の実情もあり、可能な限りで対応に努力している。場合によっては実習先を変更しなければならない。実習講師の増員も考える必要がある。愛知県内は看護養成校が増えており、実習先の確保さらには教員の確保が年々難しくなっている。</p>

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
項目 No.1120	実習先からの要望への対応(1)(2)とも、前述に含む。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
項目 No.1120	a	専門実務ワーキング議事録	○
項目 No.1120	b	運営委員会議事録	○
項目 No.1120	c	実習連絡会議報告書（部外秘）	△
項目 No.1120	d	事故報告書（部外秘）	△
項目 No.1120	e	看護セミナーアンケート	○
項目 No.1120	f	新型コロナウイルス感染症臨対策会議議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度(対象年度:2019 年度)自己点検・評価シート

自己評価組織	臨床検査技術教育・実習センター
--------	-----------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
<p>1120 臨床検査技術教育・実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は次のとおり行っている < 学内におけるもの ></p> <p>【実習センター運営委員会】 臨床検査技師有資格者と生命医科学科の教員によって構成され、センター活動及び国家試験対策に関する検証を中心に5回開催した。会議の議事録は、出席者全員の確認を経て確定している。【根拠資料 1120.a】 会議では、臨床実習とその準備、事前/事後教育に関すること、実習先と指導者に関すること、教育セミナー、就職、卒業生とのリレーション等について意見を交わし、問題点の確認・改善策・方針などを決めている。中でも、臨床実習の配置及び実習施設の確保について、点検・評価することが重要である。 また、全国の臨床検査技師養成校が集まる日本臨床検査学教育協議会での情報をフィードバックし、本学が取り組むべき対応について協議・検討している。【根拠資料 1120.d】</p> <p>【実習指導者会議】 全ての実習先に案内し、本学春日井キャンパスで2回開催した。本学の教育方針・実習指導計画等を説明し、各実習先との質疑応答・現状報告・問題点などを協議し、実習先施設間の情報交換にも一役かっている。各実習先へは教員が訪問し、点検・評価活動を行っているが、本学での実習指導者会議は、実習先の指導者が一堂に会することによって、多角的に双方の検証活動に役立てることを目的の一つとしている。【根拠資料 1120.b】また、この会議の後、実習予定学生との面談も行き、スムーズな実習への移行に努めている。 < 学外で行うもの ></p> <p>教員が実習期間中にそれぞれの実習先を訪問し、実習先の指導者等と実習の検証を行っている。その内容は、報告書として情報共有され、本学内で行う前述の「実習センター運営委員会」の場で点検・評価し、学科の教育活動にも反映させている。【根拠資料 1120.c】</p>

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	実習指導者会議は、出席した病院・施設の指導者間の情報交換の機会としての役割も果たしている。また、指導者の方に、臨床検査履修コースの非常勤講師として指導に当たっていただく機会を得ることにも役立っている。
課題事項 《箇条書き》 *向上すべき点、改善すべき点	
項目 No.1120	日本臨床検査学教育協議会で示された、臨床検査技師養成校のカリキュラム改正等への対応。 【根拠資料 1120.d】
項目 No. 1120	就職希望の多い中核総合病院が臨地実習先として少なく、実習配置に苦慮する。
項目 No. 1120	16施設を限られた教員で巡回訪問しなければならず、きめ細かい対応・状況把握が難しい状況は改善されていない。実習後に指摘を受けることもあるので、引き続き改善すべき課題である。
項目 No. 1120	選択コースであるため、年度によって実習生数変動する。上限を設ける案もあるが、できるだけ希望者全員の要望に応える方針である。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<向上・改善の進捗状況と今後の向上・改善計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
項目 No.1120	日本臨床検査学教育協議会と日本臨床検査技師会から示される臨床検査技師養成校のカリキュラム改正情報を、実習指導計画に漏れなく反映させていく。
項目 No.1120	本学科は学科設立後に科目の読み替え等により承認校として認可を得、臨床検査技師の養成を行うこととなった。そのため大幅なカリキュラムの増加は、現状では難しく、抜本的な対策が必要である状況は変わらない。更に、実習期間 12 単位（現在の倍）が求められて行くことへの対応を進めて行く必要がある。
項目 No.1120	「臨地実習前総合演習」がカリキュラムに追加される見込みであり、臨地実習前に「臨地実習前総合演習」を行う必要がある。そのため臨床検査技師履修コースの学生を 3 年次の前期までには決める必要があり、学科との調整は引き続きの課題である。
項目 No.1120	選択制で履修人数が変動することへの対応を継続して検討していく。
項目 No.1120	臨地実習施設として、愛知県内だけに留まらず、近隣（岐阜県、三重県）の中核病院の実習先を増やす必要がある。また、近隣に臨床検査技師養成校が増え、実習時間数が増えることも現実視されており、実習先の不足が懸念される。2020 年度より名城病院を臨地実習先として追加することができた。
項目 No.1120	学生の臨地実習先配置について、多角的観点から決定するよう毎年改善をしている。
項目 No.1120	就職活動・就職先決定のプロセスの把握に注意を要する。臨床検査部門のそれは、他と異なる慣例があり、学生指導に十分注意し、実習先との信頼関係を崩さないよう努めている。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
項目 No.1120	a	実習センター運営委員会議事録	○
項目 No.1120	b	臨地実習指導者会議議事録	○
項目 No.1120	c	訪問記録（一部を抜粋/非公開・部外秘）	△
項目 No.1120	d	日本臨床検査学教育協議会議事メモ	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	理学療法実習センター
--------	------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>1120 理学療法実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は次のとおり行っている < 学内におけるもの > 〔臨床実習センター運営委員会〕 理学療法士有資格者を中心とした教員によって構成され、センター活動の検証を行うことを目的としている。毎月の学科会議の際に行っており、議事録が提出されたのは2回分です。議事録は出席者全員が確認し、内容を検証し共有している。【根拠資料 1120.a】 〔実習指導者会議〕 全ての実習先に案内をし、本学春日井キャンパスで年1回行っている。本学の教育方針・実習指導計画等を説明し、各実習先との質疑応答・現状報告・問題点などの協議・実習先間の情報交換等を行う。各実習先との実習に関する点検・評価活動は、その都度教員が出向き行っているが、この実習指導者会議では、50 を越える実習先の指導者が一堂に会することによって、多角的に双方の検証活動に役立てることを目的の一つとしている。なお、この指導者会議の後、実習予定学生との面談も行っている。 < 学外で行うもの > 教員が実習期間中にそれぞれの実習先に出向き、実習先の指導者等と実習の検証を行っている。その内容は、本学内で行う前述の「実習センター運営委員会」の場で点検・評価し、学科の教育活動にも反映させている。</p>

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	臨床実習指導会議は、大学と実習先指導者双方の点検・評価活動にとって効果的であるだけでなく、指導者間の情報交換の場にもなっている。また、卒業生が指導者としてあっている施設も多いことから、有意な会議として評価できる。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.1120-1	実習先の業務等の都合もあり、年1回開催の実習指導者会議に全ての施設が参加できる訳ではない。複数回の開催は効果的でない面もあるため、遠隔/リモート参加等も視野に入れながら開催方法を検討していく。
項目 No.1120-2	実習先から求められる感染症対策、個人情報保護に関する学生への指導・教育、ハラスメント対応など、課題が刻々と多様化・細分化されている。
項目 No.1120-3	実習先施設に関する様々な情報（実習環境に関すること、指導者に関することなど）を、正確にきめ細かく把握する。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
【1120-1】 指導者会議に欠席した施設には、関連する資料を送付し情報共有に努めている。会議の開催回数・時期・内容については、常に検討し改善に取り組んでいる。
【1120-2】 他大学及び学内の他の実習センターの活動内容を参考に取り組んでいる。
【1120-3】 文科省からの調査依頼に対しては、設置改組準備課と連携し対応。実習環境・指導者の資質などについても、多面的に情報収集に努めている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
項目 No.1120	理学療法士養成に係るカリキュラム・実習時間数・指導者研修等の様々な規定・規則等の改定の取り組みが進んでおり、様々な変化へ柔軟に取り組んでいる。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
項目 No.1120	a	実習センター運営委員会議事録	○
項目 No.1120	b	実習指導者会議議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	作業療法実習センター
--------	------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>1120 作業療法実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は次のとおり行っている < 学内におけるもの > 〔臨床実習センター運営委員会〕 作業療法士有資格者を中心とした教員によって構成され、センター活動の検証を行うことを目的とし、2019 年度は 12 回開催した（前年度も 12 回）。議事録は出席者全員が確認し、検証内容を共有している。 【根拠資料 1120.a】 〔実習指導者会議〕 全ての実習先に案内をし、本学春日井キャンパスで年 1 回行っている。本学の教育方針・実習指導計画等を説明し、各実習先との質疑応答・現状報告・問題点などの協議・実習先間の情報交換等を行う。各実習先との点検・評価活動は、その都度教員が出向き行っているが、この実習指導者会議では、60 を越える実習先の指導者が一堂に会することによって、多角的に双方の検証活動に役立てることを目的の一つとしている。なお、この指導者会議の後、実習予定学生との面談も行っている。【根拠資料 1120.b】 < 学外で行うもの > 教員が実習期間中にそれぞれの実習先に出向き、実習先の指導者等と実習の検証を行っている。その内容は、本学内で行う前述の「臨床実習センター会議」の場で点検・評価し、学科の教育活動に反映させていく。</p>

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	臨床実習指導会議は、大学と実習先指導者双方の点検・評価活動にとって効果的であるだけでなく、指導者間の情報交換の場にもなっている。また、卒業生が指導者としてあたっている施設も多いことから、有意な会議として評価できる。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.1120-1	実習先の業務等の都合もあり、年1回開催の実習指導者会議に全ての施設が参加できる訳ではない。複数回の開催は効果的でない面もあるため、遠隔/リモート参加等も視野に入れながら開催方法を検討していく。
項目 No.1120-2	実習先から求められる感染症対策、個人情報保護に関する学生への指導・教育、ハラスメント対応など、課題が刻々と多様化・細分化されている。
項目 No.1120-3	実習先施設に関する様々な情報（実習環境に関すること、指導者に関することなど）を、正確にきめ細かく把握する。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
【1120-1】	指導者会議に欠席した施設には、関連する資料を送付し情報共有に努めている。会議の開催回数・時期・内容については、常に検討し改善に取り組んでいる。
【1120-2】	他大学及び学内の他の実習センターの活動内容を参考に取り組んでいる。
【1120-3】	文科省からの調査依頼に対しては、設置改組準備課と連携し対応。実習環境・指導者の資質などについても、多面的に情報収集に努めている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
項目 No.1120	作業療法士養成に係るカリキュラム・実習時間数等の指定規則改定予想されることから、実習先との連携・連絡強化が今まで以上必要となり、変化に対応して行かなければならない。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
項目 No.1120	a	実習センター運営委員会議事録	△
項目 No.1120	b	実習指導者会議議事録（部外秘）	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	臨床工学実習センター
--------	------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>1120 臨床工学実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は次のとおり行っている < 学内におけるもの > 〔臨床実習センター運営委員会〕 臨床工学技士有資格者を中心とした教員によって構成され、センター活動の検証を行うことを目的とし、ほぼ毎月学科会議と併せて開催している。【根拠資料 1120.a】 〔実習指導者会議〕 全ての実習先に案内をし、名古屋キャンパスで年1回行っている。本学の教育方針・実習指導計画等を説明し、各実習先との質疑応答・現状報告・問題点などの協議・実習先間の情報交換等を行う。各実習先との点検・評価活動は、その都度教員が出向き行っているが、この実習指導者会議では、実習先の指導者が一堂に会することによって、多角的に双方の検証活動に役立てることを目的の一つとしている。2019年度は38施設の出席があった。 < 学外で行うもの > 教員が実習期間中にそれぞれの実習先に出向き、実習先の指導者等と実習の検証を行っている。その内容は、本学内で行う前述の「臨床実習センター運営委員会」の場で点検・評価し、学科の教育活動にも反映させている。</p>
--

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	臨床工学技士養成校では一般的に行われている前述の臨床実習指導者会議は、双方の点検・評価活動にとって効果的である。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.1120-1	実習指導者会議は年1回行っているが、実習先の業務等の都合上、開催日に全ての実習先施設が出席できる訳ではないが、専門学校の時から、臨床工学部門の指導者会議への出席率は極めて高く、指導者として関わっていただいている卒業生も多い。非常に有効な点検・検証の機会となっている。
項目 No.	
項目 No.1120-3	実習先から求められる感染症対策、個人情報保護に関する学生への指導・教育、ハラスメント対応など、課題が刻々と多様化・細分化されている。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
【1120-1】	指導者会議に欠席した施設には、関連する資料を送付し情報共有に努めている。
【1120-3】	学内の他の実習センターの活動内容を参考に取り組んでいる。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
項目 No.	

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
No.1120	a	実習センター会議議事録	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	救急救命教育・実習センター
--------	---------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 救急救命教育・実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は次のとおり行っている <学内におけるもの> 毎月行われる学科の定例の会議において、救急救命実習に関しての報告・審議等の中で点検・評価を行っている。その内容は学科会議の議事録に集約しているが、救急救命実習に関するものを抜粋した資料を【根拠資料 1120.a】とする。 実習前に、実習日程・実習内容・学生の実習先選定等を協議し実習に備える。実習後は施設から返却された実習記録・評価等を実習担当教員が点検し、その中で個人・全体としての問題点を抽出し、改善に向け学生との面談を行い、総合的に検証している。それらの内容は学科会議で教員全体で共有している。	
<学外で行うもの> 教員が実習期間中にそれぞれの実習先に出向き、実習先の指導者等と実習についての検証を行っている。その内容は、本学内で行う前述の学科会議の場で随時点検・評価している。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	春日井市消防本部から派遣されている現役消防職員（救急救命士）が、センター長と協議のうえ、実習先を開拓し調整を担っている。

課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.1120-1	救急救命士履修コースは選択性のため、毎年実習生の増減が生じる。2019 年度までは希望者全員の履修が可能であったが、年々人数が増え、実習環境が手狭になってきている。感染症対策の面でも緊急の課題と言える。また、学外の実習先の確保も難しくなっており、実習生の人数（定員）の検討も課題である。
項目 No.1120-2	春日井市消防より非常勤の救急救命士に指導にあたっていただいている。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
【1120-1】	臨地実習の成果を最大限に生かすために行われる学内実習に関して、創設時に購入した限られた実習用備品・スペース・指導担当教員の状況下で、工夫を凝らし対応している。
【1120-2】	2018 年度より、有資格の専任教員 1 名＋春日井市より出向による教員 1 名の体制となり、必要に応じて春日井市より非常勤の有資格者に指導にあたっていただく体制としている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
項目 No.1120	臨地実習での実習効果を最大限に引き出すために学内実習は非常に重要であり、学内実習の質を上げることは臨地実習での効果を上げることにもなり、学内実習環境を改善するため現状の環境で器材の配置や収納スペースの変更等を行い、スペース確保に取り組む。救急救命士養成コースに進む学生が増えることから、実習先を増やす必要があるため、近隣市町村の施設に依頼するだけでなく、県外の施設への依頼も増やしている。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
項目 No.1120	a	会議議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	管理栄養実習センター
--------	------------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織(センター、事務部等)の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。</p> <p>1120 管理栄養科実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は次のとおり行っている <学内におけるもの> 〔管理栄養実習センター運営委員会〕 センター所属の教員のうち、管理栄養士の資格を有する教員と専攻主任で構成され、専攻の教育に関することと併せて実習に関する事を点検・評価する場である。実習の進捗状況、課題、検討事項などについて報告・審議などを行う。2019年度は14回開催した。【根拠資料 1120.a】 〔実習指導者会議〕 全ての実習先に案内をし、本学春日井キャンパス内で年1回行っている。本学の教育方針・実習指導計画等を説明し、各実習先との質疑応答・報告・問題点などを協議し、同時に実習先間の情報交換も行っている。各実習先との個別の点検・評価活動は、その都度教員が外向き行っているが、この実習指導者会議では、多くの実習先の指導者が一堂に会することによって、多角的に双方の検証活動に役立てることを目的の一つとしている。なお、この指導者会議の後、実習予定学生との面談も行っている。【根拠資料 1120.b】 <学外で行うもの> 教員が実習期間中の各実習先を訪問し、実習先の指導者等と実習の検証を行っている。その内容は、本学内で行う前述の「実習センター運営委員会」の場で点検・評価し、専攻の教育活動にも反映させている。【根拠資料 1120.c】</p>

長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.1120	他の管理栄養士養成校ではほとんど行っていない「実習指導者会議」「教育セミナー」を開設当初から行い、特に指導者会議は双方の点検・評価活動にとって効果的である。 教育セミナーのテーマによっては、他の実習センターが行うセミナーと相互に案内し、実習先から好評を得ている。【根拠資料1120.d】
項目 No.1120	愛知県内の多くの管理栄養士養成校が加盟している「協議会組織」に非加盟であるため、独自に実習先を開拓する必要があるが、専攻教員の努力により確保している。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況と今後の改善・向上計画>

課題事項 <<箇条書き>> *向上すべき点、改善すべき点と対象年度における取り組み、今後の計画	
項目 No.1120	専攻を開設した時の定員を倍増したこと、愛知県内に管理栄養士養成校が多くあることから、臨地実習先の確保が常に厳しい状況である。教員さらには卒業生とのネットワークを活用し、また、他学科の実習先の管理栄養部門にも働きかけを行い、多面的に実習先確保に努めている。
項目 No.1120	遠方出身の学生の、地元での実習対応は継続的課題である。（実習地の開拓、調整、指導）
項目 No.1120	ハラスメントに関して学内の専門教員からのアドバイス、学生へのきめ細かい指導と対応、実習指導者会議を通して双方での理解と取り組みを進めている。
項目 No.1120	実習指導者にガイダンスを依頼し、管理栄養士の業務への理解を深め、最新情報を確認し、実習指導について意見交換する取り組みを平成30年度から実施し効果を得ている。
項目 No.1120	全ての実習施設との信頼関係の構築はもちろん必要であるが、強い連携を持てる実習先を増やす。

3. 根拠資料

根拠資料		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
項目 No.1120	a	2018年度 管理栄養実習センター運営委員会議事録	△
項目 No.1120	b	2018年度 実習指導者会議議事録	○
項目 No.1120	c	2018年度 訪問記録【部外秘/非公開】	○
項目 No.1120	d	2018年度 教育セミナーアンケート1【部外秘/非公開】	○
項目 No.1120	e	2018年度 教育セミナーアンケート2【部外秘/非公開】	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度： 2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育支援部（図書館事務課）
--------	---------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、継続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
「中部大学附属三浦記念図書館規則」、「中部大学附属三浦記念図書館利用規程」、「中部大学附属三浦記念図書館資料調達及び管理規程」及び「事務分掌」において、図書館運営、資料調達等を規定し、運用している。[1120a] [1120b] [1120c] [1120d] [1120e] 活動内容の目標設定、計画立案及びその実施にあたっては、「中部大学附属三浦記念図書館規則」第3条第2項の規定に基づき設置されている「中部大学附属三浦記念図書館運営委員会」において審議し検証を実施している。活動内容の報告についても、同様である。[1120f] [1120g] 自己点検・評価については、「キャリア開発シート」において課員各自で目標設定し、点検評価を行っている。[1120h]	
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	データベース等のさらなる充実による教育・研究活動への貢献（Web of Science、Discovery サービスの導入。MathSciNet 新規契約）[1120i] [1120j] [1120k]
項目 No. 1120	電子ブックの充実（Maruzen eBook Library 全学利用へのシフト、Kino Den の利用拡充、EEBO の提供開始。国立国会図書館デジタルコレクションの利用開始）[1120l] [1120m] [1120n]
項目 No. 1120	図書館サポーター（チャレンジ・サイト課題解決型プロジェクト）による学生視点の取り組み[1120o]
項目 No. 1120	指定出版社制導入によるバランスの良い蔵書構成の実現 [1120p]
課題事項 << 箇条書き >> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	書架の計画的な管理（重複図書の除籍および書架スペースの確保）[1120q] [1120r]
項目 No. 1120	蔵書点検の継続的な実施（5 年周期）[1120s]

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120	学術情報サービスの充実。Web of Science や Discovery サービス (Chubu Search) を導入し、MathSciNet の新規契約も完遂させた。電子ブック Maruzen eBook Library の全学的な利用へのシフト、Kino Den 購読タイトルの拡充、Early English Books Online および国立国会図書館デジタルコレクションの導入。[1120i] [1120j] [1120k] [1120l] [1120m] [1120n]。
1120	書架スペースの確保のために、工学部に対し、創設から5年分の受入図書の中から除籍図書案を提示し、承認を得たことで、B1階の工学関連のスペースをわずかながら確保した。また、昨年度、未実施だった分野の重複図書の除籍を実施した。 [1120r][1120q]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	書架飽和状態解消のための中期予算申請し、図書館増築、倉庫新築あるいは倉庫レンタル等を検討する
1120	人員不足を解消するための、業務委託化の検討

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学附属三浦記念図書館規則	○
1120	b	中部大学附属三浦記念図書館利用規程	○
1120	c	中部大学附属三浦記念図書館資料調達及び管理規程	○
1120	d	中部大学附属三浦記念図書館運営委員会規程	○
1120	e	事務分掌	○
1120	f	2018 年度第 1 回図書館運営委員会議事録	○
1120	g	2019 年度第 1 回図書館運営委員会議事録	○
1120	h	2019 年度キャリア開発シート	○
1120	i	Web of Science_図書館ホームページ	○
1120	j	Discovery サービス (CHUBU Search) 導入	○
1120	k	MathSciNet 図書館ホームページ	○
1120	l	電子ブックの拡充	○
1120	m	EEBO_図書館ホームページ	○
1120	n	国立国会図書館デジタルコレクション_図書館 HP	○
1120	o	図書館サポーター活動_2019 年度最終報告	○
1120	p	指定出版社リスト 2019	○
1120	q	重複本抜き作業進行状況	○
1120	r	図書除籍のお願い(工学部あて)	○
1120	s	蔵書点検実施状況および計画表	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	民族資料博物館
--------	---------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 管理運営組織において、持続的な業務内容の点検について、週一回程度の定例会議、および定期的な学芸会議、運営委員会を開催し、各種の申請書類手続きの流れや書類様式の適切性を確認している[1120a]。規程の改訂を要するものは、「民族資料博物館運営委員会」において審議および承認を得て変更している。学内外への情報サービス提供に関係する各種の申請書は、ホームページにて広く公表している[1120b]。学外の有識者により、館の活動について評価を受ける機会を設けている[1120c]。館の運営活動には、収蔵資料の学術情報の充実が必須のため、これまで寄贈を受けた各種の実物資料について、専門研究者との交流を進めながら追加情報を収集している[1120d]。	
長所・特色 < 箇条書き > *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	民族資料博物館外部専門委員会[1120c]。
項目 No.	
課題事項 < 箇条書き > *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	寄贈資料の受け入れ後の評価、審議[1120d]。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120 寄贈資料の受け入れ後の評価、審議[1120d]。 民族資料博物館に、これまで受け入れられた寄贈資料の多くは、とくに来歴情報が不足している。つまり、いつ、どこで収集されたものなのか、不明な資料が多い。なかでも収集者が長期にわたり収集してきた、いわゆるコレクション資料は、土器、装束、彫刻など多岐多様な分野にわたるが、学術的な記録が伴わないものが多い。そのため館では学術的な資料価値を調査する目的で、2019年度から積極的に様々な分野の研究者と交流するためのネットワーク形成作りへの取り組みを始めた。博物館資料の鑑定や評価を、積極的に調査し学ぶことで、今後の館の教育普及活動、なかでも学生や一般市民に公開する学術資料として、資料保存への対策をはじめ、企画催事や展示解説、および授業利用のための解説作成、さらに大学への広報など、館の具体的な運営の軸となる、これら中部大学の学術資料を詳細にわたり、調査し評価する作業を開始し、継続していきたい。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
1120	今後、館で収集していく博物館資料の受入れ方針を検討し、館の運営、および教育普及活動を連動して計画していきたい [1120d]。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学民族資料博物館運営委員会議事録 (2020年3月24日)	○
1120	b	各種申請書 ホームページ https://www3.chubu.ac.jp/museumu/application/	○
1120	c	中部大学民族資料博物館 外部専門委員会議事録 (2019年12月10日)	○
1120	d	資料の調査協力について (依頼)	△

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	蝶類研究資料館
--------	---------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 中部大学蝶類研究資料館規程、中部大学蝶類研究資料館運営委員会規程に則り、活動を行っている [1120a] [1120b]。学外機関（日本蝶類研究所、名和昆虫博物館）の協力を得ての活動体制（運営委員会、小委員会）を組織している [1120c] [1120d]。館長を委員長とする小委員会（運営委員会規程第9条「専門部会」に相当）は、学内の実務担当者と学外機関の協力者がメンバーが構成されており、館の運営に関連する事柄、事業計画、藤岡コレクションの活用などについての案を策定し、それを運営委員会にあげている。案についての運営委員会での審議・結果を受け、小委員会では具体的な活動を実施する役割も担っている。また、年度最初の第一回運営委員会では、前年度の活動報告を行い、了承を得ている。その際には、「企画展示」の際に行った来館者へのアンケートを役立てている。アンケートの集計結果を分析し、企画展示を含む前年度の活動の点検・評価が行われ、同時に、当館の課題である「藤岡コレクションを本学の教育研究にどのように活用するか」について、学外機関の委員を交えた意見交換が行われ、次年度以降の課題にも組み込まれている [1120e] [1120f]。 また、委員会の開催及び議事録作成については、起案決裁の手続きを踏んで行っている [1120g] [1120h]。	
長所・特色 < 箇条書き > * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	学外機関（日本蝶類研究所、名和昆虫博物館）の協力を得ての活動体制（「運営委員会」「小委員会」）
項目 No.	
課題事項 < 箇条書き > * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	藤岡コレクションを本学の教育研究にどのように活用するか
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	<p>藤岡コレクションの活用として、毎年「企画展示」を行っている。2019年度は、学外の「昆虫 DNA 研究会」「三河昆虫研究会」との共催で「藤岡蝶類コレクションと蝶学のたのしみ」を開催した。展示では「昆虫 DNA 研究会」の公開シンポジウム（8/24 開催）の講演内容に沿って、藤岡コレクション、三河昆虫研究会コレクションから関連した標本を展示した。また、展示期間中に「サイエンスカフェ（7/28 開催）」も行い、2つの講演会をも加えた「子供から大人まで、蝶・昆虫の世界に興味を持ってもらえるような企画」としたが、結果として、来館者数は前年度を下回り、かつ、本学の学生・教職員の参加者数も伸びなかった[1120i] [1120j] [1120k]。</p> <p>別の藤岡コレクションの活用として、中部高等学術研究所が主体となり、デジタル化の計画（3年間）に沿った活動が開始された[1120l]。2019年度からギフチョウ、ヒメギフチョウを中心に撮影が始まり、1,600余りのデジタルデータが蓄積された。</p> <p>また、大場副館長により「古いチョウの標本を用いた遺伝子解析」が昨年度からトライされており（2019年度特別研究費 A）、実験方法の確立を目指し、かつ、このテーマで科研費の申請も行うなど、藤岡コレクションの研究面での活用について踏み出したところである[1120m]。</p>

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	春日井キャンパスでの藤岡コレクションの活用（学生、教職員における教育・研究での活用方法の検討・実施）
1120	藤岡コレクションの保存・保管環境の確立（日本蝶類研究所からの移管計画の遂行、2020年度三浦記念会館改築に伴う春日井キャンパスへの移設関連）

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学蝶類研究資料館規程	○
1120	b	中部大学蝶類研究資料館運営委員会規程	○
1120	c	2019年度中部大学蝶類研究資料館運営委員会名簿	○
1120	d	2019年度中部大学蝶類研究資料館運営委員会小委員会名簿	○
1120	e	2019夏の展示会アンケート集計結果	○
1120	f	2019年度中部大学蝶類研究資料館運営委員会議事録	△
1120	g	起案：2019年度第1回蝶類研究資料館運営委員会の開催について	△
1120	h	起案：2019年度第1回蝶類研究資料館運営委員会の議事録の作成について	△
1120	i	2019夏の展示会リーフレット	○
1120	j	2019夏の展示会チラシ	○
1120	k	2019夏の展示会新聞記事	○
1120	l	藤岡コレクションのデジタルデータベース構築と利用計画	○
1120	m	2019年度特別研究費成果報告書	△

出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	監査室
--------	-----

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	委員会なし

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
<p>1120 監査室の業務は、事務分掌に記載のとおり、監事の職務支援業務と内部監査業務である。内部監査は、2014 年度に本学園に導入された制度であり、制度導入以来、学内の理解を得て内部監査業務を軌道に乗せることを監査室の重点目標として業務を行っている。内部監査実施にあたっては、テーマに合わせて事務系管理職に監査担当者を委嘱する方式を採っているため、部長会における定期的な実施状況の報告と、『教職員専用』HP への情報掲載を行っている [1120a、1120 b、1120c、1120d]。</p> <p>持続的な業務内容の点検については、制度化された検証は行っていないが、毎年度の実施状況について、監事の助言も受けながら監査室内で自己点検・評価した上で、次年度に生かすサイクルは回している。</p> <p>また、2019 年度は、各部署を巡回する業務監査の仕組みを構築することにより、今後学園において継続的に内部監査を実施する土台を作る年度とすることを重点目標として業務を行った。2019 年度の実施状況を踏まえ、2020 年度以降もよりよい形での実施を目指す。</p>	
長所・特色 < 箇条書き > * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	内部監査実施にあたって、テーマに合わせて事務系管理職に監査担当者を委嘱し、監査に協力してもらう方式を採っているため、内部監査を通じて監査担当者が他部署の業務を理解する機会となっていること。
項目 No.	

課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	2019 年度から実施している業務監査について、2019 年度の実施状況における反省点を改善し、よりよい形で 2020 年度以降も実施すること。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	毎年度、内部監査業務の実施状況について自己点検・評価し、監査の過程で監査担当者あるいは監査対象部署から指摘があった点や、不都合があった点を次年度の改善事項としている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	監事の職務支援業務については、2019 年に大幅に改正され 2020 年 4 月に施行された私立学校法の趣旨を踏まえた監事支援体制を構築するよう引き続き必要な対応を行う。
1120	内部監査業務については、業務監査導入 2 年目となるので、実施過程の要所所での自己点検により改善すべき点を抽出し、次年度以降の円滑な実施につなげる。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2019 年 4 月 15 日部長会資料 2018 年度内部監査の実施状況について	○
1120	b	2019 年 10 月 21 日部長会資料 2019 年度内部監査の実施について	○
1120	c	お知らせ 2018 年度内部監査結果の概要について ホームページ https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/news/detail-4035.html	○
1120	d	お知らせ 2019 年度内部監査の実施について ホームページ https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/news/detail-4050.html	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020年度（対象年度：2019年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	振興基金室
--------	-------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	年4回、学校法人振興基金運営委員会を開催し報告および検討事項について議論をする。[1120a]
1120	年度別寄付金集計表を作成し報告する。[1120b] [1120c]
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	学校法人振興基金運営委員会のメンバーに外部委員（元同窓会長、評議員、同窓会半田支部長）をお願いしている。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	卒業生、在学（校）生保護者への寄付依頼の検討。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120	中部大学第一高等学校開校80周年記念事業募金では、目標額1億円を上回る約1億6千7百万円の寄付額となった。[1120b] [1120c] 学校法人中部大学振興基金運営委員会では、周年行事に限定せず寄付を受け入れ学生・生徒に対する教育・研究をより充実し、維持発展させていくため2020年度より学園創立100周年を見据えて募金の種類の見直しをおこなった。2020年4月からの募金の活動を行うため「募金趣意書」を完成させ、ホームページをリニューアルし、新システムにデータ移行するなどの業務を行った。[1120e]

<今後の改善・向上計画>

項目No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	募金の種類を見直し学園創立100周年に向けた募金活動の開始。目標額を30億円に設定し、募集期間は2039年3月31日までとする。[1120e]

4. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	2019年度学校法人中部大学振興基金運営委員会議事録（第1回～第4回）	○
1120	b	寄付金集計表（2012～2019年度）	○
1120	c	募金のご案内	○
1120	d	中部大学第一高等学校開校80周年記念事業	○
1120	e	募金趣意書 - 学園創立100周年を見据えて -	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	総務課
--------	-----

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、継続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	<ul style="list-style-type: none"> 私学法改正に伴い、寄附行為の改正（役員の職務と責任の明確化、経営力強化、情報公開の充実）、寄附行為の公表を行った。[1120a、1120b] 寄附行為及び管理運営規則に基づく理事会、評議員会及び運営協議会をはじめ、学園の管理運営に資する諸会議並びにバス運行委員会や個人情報保護委員会の事務局として、会議が円滑に行えるよう業務を行っている。文部科学省への申請が伴う内容については、速やかに届出ができるよう、議事録の作成などの手続きをしている。[1120c、1120d、1120e、1120f] 文書取扱規程に定める主管課の統括部署として、規程集などの文書管理を行った。運営協議会、大学協議会、起案決裁などで改正が承認された際は規程名、改正内容、改正根拠を取りまとめ、最新の規程を規程集サイトに掲載するための取り組みを行っている。また、規程の一元管理に向けた取り組みとして、規程集サイトを正しい状態とするため、規程の改正漏れや誤字脱字などを修正している。[1120g] 規程集サイトの精度を向上させるための取り組みとして、規程の改正漏れや誤字脱字などを修正しているが、規程毎に言葉の使い方等がバラバラであるため統一化が課題。 事務分掌の書き方を見直す取り組みとして、部署横断的な業務が増加したことにより煩雑となっている事務分掌を業務×組織の一覧表とし体系的に整理した。[1120h] 福利厚生に関する業務において、新徳高山荘の利便性向上のため、キャッシュレス決済を導入した。また、互助会観劇会の運用の見直しのため、会員へのアンケートを実施し、適切な手続きを踏み審議を進めた。[1120i、1120j]
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	私学法改正への対応[1120a]

項目 No. 1120	会議の適切な運営[1120c、1120d、1120e、1120f]
項目 No. 1120	事務分掌の書き方の見直し[1120g]
項目 No. 1120	規程の一元管理に向けた取り組み[1120h]
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 1120	規程の書き方の統一化

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120	・会議のペーパーレス化について、2019年10月より会議資料をクラウド上にアップロードする方法に変更し、事務の効率化に向け試行を行っている。[1120k]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	申請書の電子化

4. 根拠資料

項目 No.	根拠資料 No.	根拠資料の名称	提出区分
1120	a	寄附行為の改正について（新旧対照表）	○
1120	b	寄附行為の公表について（ホームページ） https://www.chubu.jp/documents/main/content/1008/1008_4d70822b80de9dbdcab4461fc7a3f182.pdf	○
1120	c	2019年度理事会議事録	○
1120	d	2019年度評議員会議事録	○
1120	e	2019年度運営協議会議事録	○
1120	f	2019年度バス運行委員会議事録	○
1120	g	規程の確認について（メール、規程担当部署一覧）	○
1120	h	事務分掌の見直しについて（会議資料、2019年度事務分掌）	○
1120	i	新穂高山荘のキャッシュレス決済導入について（起案書、メール）	○
1120	j	互助会観劇会の見直しについて（起案書、メール）	○
1120	k	会議のペーパーレス化について	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人事課
--------	-----

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、継続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 ハラスメントに関する危機管理体制の強化を目的に、従来のハラスメント対策委員会の機能を見直し、ハラスメント防止・啓蒙活動に特化した「ハラスメント対策委員会」と、事案発生時の迅速な対応を目的とした「ハラスメント調査委員会」に体制を整えた[1120a]。	
1120 衛生委員会と交通安全委員会を統合し、新たに「安全衛生委員会」を立ち上げ、その下に実働部隊としての「衛生部会」、「安全部会」置き、教職員、学生・生徒の健康管理、および、職場環境の改善に取り組んだ。 [1120b]。	
1120 働き方改革関連法案の改正を受け、時間外労働の削減、年次有給休暇5日間の取得義務化、非正規職員に対する均等待遇、均等機会の確保等、法の趣旨に即した各種取り組みを行った[1120c] [1120d]。	
1120 大学教員の出張申請時の事務処理の負担軽減、効率化を目指し、出張旅費 WG を立上げ、出張申請書のフォーマットの見直しを行った[1120e]。	
長所・特色 < 箇条書き > *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	ハラスメント対策委員会の活動として、名古屋大学ハラスメント相談センター准教授を講師としてお招きし、窓口担当者、相談員を対象に、専門家による講演、実技指導をいただいた [1120f]。
項目 No. 1120	非正規職員に対する均等待遇、均等機会の確保として、派遣職員に対してスキルアップ研修を実施 [1120c]。
課題事項 < 箇条書き > *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	ハラスメント相談窓口担当者に対する、ハラスメント対応研修の継続的な実施。 ハラスメント対応は、初動が重要であるため、引続き相談窓口担当者のスキルアップを目指す [1120a]。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントに関する研修においては、名古屋大学ハラスメント相談センター准教授を講師としてお招きし、窓口担当者、相談員を対象に、専門家による講演、実技指導をいただいた。特に大学におけるハラスメントの特徴（パワハラ、アカハラ等）をテーマに、初動の重要性について、より実践的な視点での研修を行った[1120a]。 ・非正規職員に対する均等待遇、均等機会の確保として、派遣職員に対しても専任職員同様の研修の機会を提供し、社会的責任を果たすことができた[1120c]。 ・出張旅費 WG での検討結果を踏まえ、「出張の手引き（研究出張用）」を作成し、ホームページに公開した[1120g]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	引続き、大学教員の出張申請時の事務処理の負担軽減、効率化を目指し、出張申請に関する業務フローの見直しを行う。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	人事課 1120a：ハラスメントに関する危機管理体制の強化について	○
1120	b	人事課 1120b：安全衛生委員会の設置について	○
1120	c	人事課 1120c：派遣職員フォローアップ研修 20191101	○
1120	d	人事課 1120d：年次有給休暇の取得について	○
1120	e	人事課 1120e：出張旅費 WG 答申	○
1120	f	人事課 1120a：ハラスメント対応研修実施要項	○
1120	g	出張の手引き（研究出張用）（ホームページ） https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/application/general_administration_department/documents/shutchou_ryokou/shutchou_tebiki.pdf	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	学園広報部広報課
--------	----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、継続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	S
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 事務分掌に規定された学園広報の業務のうち、大学案内 2021 の制作について前身の学園広報センターから引き継ぎ、コンペを経て選定された新たな委託業者と大学案内の制作を行った。[1120a] 大学案内 2021 の制作にあたっては、法人事務局と大学事務局を横断した制作チームを編成し、新たな中部大学のブランドを構築するべく、ビジュアルシンボルを策定した。[1120b] 策定したビジュアルシンボルを使用した広告を JR 千種駅看板に設置し、大学をはじめ併設校の PR を行った。[1120d] 活動の内容を検証する委員会が設置されていないため、2019 年度は検証ができなかった。	
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	法人事務局と大学事務局を横断した若手職員による制作チームを編成し、各部署の意見を取り入れた。[1120b]
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	委員会の早期設置を図る。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	チャレンジ・サイトの課題解決型に「ちゅとら」を活用した学園の広報活動を申請し、採択された。学生12名と夏のオープンキャンパスやゆるキャラグランプリなど、学内外の活動において「ちゅとら」を通して学園の広報活動を行った。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	課の業務内容の確立とメディア対応の確立。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	大学案内 2021 の制作委託業者選定について	○
1120	b	大学案内 2021 度版制作チームについて	○
1120	c	大学案内 2021 制作会議議事録（第1回～第17回）	△
1120	d	JR 千種駅の看板設置写真	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	学園広報部 渉外課
--------	-----------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	産官学連携組織「中部大学幸友会」では、会則に常任理事会、役員会、総会の設置ならびにその役割について規定している。常任理事会（毎年4月、10月）にて活動内容を検証、審議し、役員会へ提案、役員会（毎年4月）にて審議した後、総会（毎年4月）にて構成員である会員の承認を得ることにより、事業内容の点検を行っている[1120a] [1120b]。
1120	本学の在学生の全保護者で組織する「中部大学後援会」では、会則に役員会、評議員会の設置ならびにその役割について規定している。保護者の代表により構成される役員会（毎年5月）、評議員会（同）において審議、承認を得ることにより活動内容の検証を行っている[1120c] [1120d]。 また、後援会事業の柱である「父母との集い」では、参加者アンケートを実施し、当該年度の活動内容の検証と次年度の事業内容の向上に活用している[1120e]。
1120	中部大学音楽祭については、学生主体の実行委員会（毎年1月、7月、11月開催）を組織し、活動の企画・運営・内容の検証を行っている。音楽祭の来場者にアンケートを実施し、活動内容の振り返りと改善に活用している[1120f] [1120g]。
1120	キャンパスコンサートの来場者に毎回アンケートを実施して活動内容の検証を行い、次回の企画・立案のための材料としている[1120h]。
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	約850 法人の会員で構成される産官学連携組織「中部大学幸友会」では、常任理事会、役員会が、役員、即ち地域で活躍する企業人から直接、地域社会の動向や大学に対する要望・期待を聞く機会にもなっている。[1120b]

課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	キャンパスコンサートの企画・運営について、主催者である大学の検証機能が整備されていない。
項目 No. 1120	父母との集いの参加者アンケートは、現在は大学会場のみ実施しているので、今後は地区6会場でも実施し、活動全体の検証材料を収集することが必要。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	キャンパスコンサートの実施内容およびその結果を検証する機能が学内に設置されていないことについては、まだ対応が進んでおらず、改善には至っていない。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	キャンパスコンサートの企画・運営について、2020年度開催分から、学長等とアドバイザー、事務局の連携体制を構築する。

4. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学幸友会会則	○
1120	b	第31期中部大学幸友会常任理事会・役員会・総会議事録	○
1120	c	中部大学後援会会則	○
1120	d	2019年度中部大学後援会役員会・評議員会議事録	○
1120	e	2019年度父母との集いアンケート集計結果	○
1120	f	2019 中部大学音楽祭実行委員会議事録	○
1120	g	2019 中部大学音楽祭アンケート	△
1120	h	第87回キャンパスコンサートアンケート	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	生涯学習推進課
--------	---------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	S
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>1120 中部大学エクステンションセンター規程「第2条 センターは、学生、社会人及び地域社会を対象として、学習の多様なニーズに応え、それぞれの能力を開発し、また豊かな人間性を養う種々の機会を提供することによって、社会に貢献することを目的とする。」に基づき、2019年は2回のエクステンションセンター運営委員会を実施し、規程改定の審議、次年度事業予定の審議を行っている [根拠資料 1120a] [根拠資料 1120b] [根拠資料 1120c] [根拠資料 1120d]。</p> <p>1120 COC推進センターは、2013年度採択の文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」と2015年度採択の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」を地域と協働して、地域社会に貢献することができる実践的人材の育成と各種事業を全学的に推進する目的で設置された [根拠資料 1120e]。</p> <p>COC推進委員会およびCOCプラス推進委員会を設置し、事業計画、その他運営に関する重要事項を検討・審議している [根拠資料 1120f] [根拠資料 1120g]。</p> <p>各事業の目標や計画については、年度始めの委員会に提出している [根拠資料 1120h]。</p> <p>活動内容については、成果報告書（冊子）に纏め学内外へ配付している（HPにも掲載） [根拠資料 1120i]。</p> <p>自己点検・評価については、学部長研究科長会構成員からなる内部評価委員会を設置しており、事業計画と成果の自己評価表等の資料を作成し、学長が議長となり2020年1月28日に実施した。委員の意見を、今後の展開と発展を考えるうえでの参考としている [根拠資料 1120j]。</p> <p>1120 教員免許状更新講習の実施。教員免許状更新講習運営委員会にて受講者データを分析し、実施方針の決定、見直し、新しい講習の企画を行う。また、講習担当講師と同委員を集めて講師会議を行い（年2回程度）講習の工夫、成果、反省の発表を行い、次年度運営の参考にするべく情報共有を行っている [根拠資料 1120k1]。</p>
--

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	本学が有する「知」を活用することで地域貢献をしている。
項目 No. 1120	COC組織体制は、学長を総括責任者とし、全学体制を構築している。全学部からの委員を含むCOC推進委員会を設置し、教職協働で事業推進にあたっている [根拠資料 1120m]。
項目 No. 1120	地域と協働して、地域貢献活動を通し社会で活躍できる人材をCOCは「地域創成メディエーター」、COC+は「地域活性化リーダー」として育成している [根拠資料 1120n]。
項目 No. 1120	岐阜大学中心に設置されているCOC+コンソーシアムの参画大学でサマースクールを企画し、学生が合同で地域の課題解決に向けた取り組みを行っている [根拠資料 1120o]。
項目 No. 1120	教員免許状更新講習受講者に向けてアンケートを行い、その結果を講師および運営委員会にて公表し、講習立案や講習内容の改善に役立てている [根拠資料 1120p]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	公開講座（ジュニアセミナー）の拡大
項目 No. 1120	「地域創成メディエーター」資格の取得方法が分かり難いため、パンフレット等の見直し
項目 No. 1120	中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC）入学生を増やすための募集活動
項目 No. 1120	事務部における業務内容の点検方法についての見える化

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	公開講座の募集方法の見直しを行った。
1120	COC、COC+事業は、教員の理解・協力のもと、「地域創成メディエーター」、「地域活性化リーダー」の資格取得を学生に強く奨め、課題から認定まで指導およびフォローアップを行い、2019年度は、延べ97名に認定証書を授与することができた。COC+事業は、2019年度で5年間の補助事業が終了するため、2020年度からの自走での活動方法について6月から検討を重ね、一部の活動をCOC事業に組み込み継続することとした。認定資格も「地域創成メディエーター」に統合し、取得方法の流れが一目でわかるチラシを作成した [根拠資料 1120q]。
1120	COC事業の取り組みの一つCAACは、2019年度も入学生6名と増えていない。2020年度の募集に向け、3月にパンフレットおよびホームページのリニューアルを行った [根拠資料1120r]。
1120	教員免許状更新講習終了後に講師会議を開催し、講習の反省点や工夫した点など情報共有を行い、講師間での共通認識を持つと共に、次回の講習の改善に向けての取り組みを行っている [根拠資料 1120s]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	引き続きの公開講座等の活性化
1120	COC事業の地域連携活動を増やすため、教員への理解・協力を求め、追加募集を行う。
1120	COC+事業の取り組みを活かし地域を広げ、より社会で活躍できる人材「地域創成メディエーター」の育成を目指す。
1120	CAAC広報に注力し、成果が見られない場合は、出直しの抜本改革を検討する。
1120	事務部における業務内容の点検方法として、定期的に課内で会合（勉強会）を開き、相互の業務についてガルーンの予定表や資料を用いながら理解を深め意見交換をし、情報を共有する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	中部大学エクステンションセンター規程	○
1120	b	中部大学エクステンションセンター運営委員会規程	○

1120	b	中部大学エクステンションセンター運営委員会規程	○
1120	c	2019年度第1回エクステンションセンター運営委員会議事録	○
1120	d	2019年度第2回エクステンションセンター運営委員会議事録	○
1120	e	COC推進センター規程	○
1120	f	COC推進委員会とCOCプラス推進委員会の規程	○
1120	g	COC推進委員会とCOCプラス推進委員会の開催案内、議事録等	○
1120	h	COCとCOC+の事業計画と予算	○
1120	i	COCとCOC+の成果報告書（HP掲載） (COC) https://www3.chubu.ac.jp/coc/report/ (COC+) https://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/report/	○
1120	j	第7回COCおよび第4回COC+の内部評価委員会議事録	○
1120	k	教員免許状更新講習運営委員会規程	○
1120	l	教員免許状更新講習運営委員会議事録	○
1120	m	2019年度COC事業体制図	○
1120	n	COCとCOC+資格取得ガイド（HP掲載） (COC) https://www3.chubu.ac.jp/innovation_mediator/ (COC+) https://www3.chubu.ac.jp/coc-plus/qualification/	○
1120	o	サマースクール2019 in ひだ チラシ	○
1120	p	教員免許更新講習評価アンケート	△
1120	q	地域創成メディエーター資格取得案内チラシ	○
1120	r	CAACホームページ（パンフレットも掲載） https://www.chubu-univ.jp/caac/	○
1120	s	教員免許状更新講習講師会議資料	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	社会連携企画室
--------	---------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	2018 年度の中部大学運営企画研修会（2018.9 開催）において周知した「志願者倍増 4 万人計画」の実施項目のうち女子入学生増加 Project、ステークホルダー向け学修成果発表会 Project、宇宙航空理工学科フォロー Project の 3 つの Project を実施している。[1120a, b, c] この 3 つの Project は単年度終了ではないので、それぞれの Project が複数回の打ち合わせを重ね、検討している。[1120d] また、中間報告会を理事長・総長、学長出席のもとで行い、そこでの意見を Project に持ち帰り、軌道修正しながら、Project の所期の目的を達成するための改善・向上に向けた検討を行っている [1120e]
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	社会連携企画室は Project 方式で業務を行っているので、部署を超えた多人数の有益な意見を聴取できる。加えて、全学的な課題や問題点を共有でき、自ら取り組むべき仕事の位置づけが明確になる。
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	複数年事業もあるので、適宜に点検を実施し、修正する必要がある。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	女子学生倍増 Project のさらなる推進[1120a, d, e]
1120	ステークホルダー向け学修成果発表会の開催[1120d]
1120	宇宙航空理工学科のフォロー → イベントの開催[1120d]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	Project ごとにPDCA サイクルを実施し、スピード感を持って取り組んでいく

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	志願者倍増 4 万人計画&ポンチ絵	○
1120	b	ステークホルダー向け学修成果発表会「学生力体感会 2019」案内リーフレット	○
1120	c	宇宙航空理工学科開設一周年 研究・教育報告会 案内リーフレット	○
1120	d	プロジェクト議事メモ	△
1120	e	女子学生倍増プロジェクト中間報告書、議事メモ	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	学術推進室
--------	-------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	学術推進室長から示された「学術推進室の事業計画－(1)学術活動支援用外部資金の増加策、(2)学内知財の企業化」に則り、月1回程度開催される学術推進室 定例会議においてその方策などを検討し、学術支援活動を行っている。[1120a] [1120b]
1120	学術推進室 定例会議には、学術推進室、学術支援部のメンバーに加え、法人事務局長に出席頂きアドバイスなどを頂きながら検討を行っている。[1120b]
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	学術推進室 定例会議については月1回程度のペースで頻繁に会合を開き、学術支援活動に向けた検討を行っている。[1120b]。
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	学術活動支援用外部資金の増加、学内知財の企業化の更なる検討。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
------------	---

1120 大型研究費申請のためのプロジェクトの組織化などを旨し、学内研究者の交流活性化と協力体制を確立するため学内研究情報交換会を計画したが、新型コロナウイルス感染症対策のため延期となった。[1120c]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	学内研究情報交換会を開催し、学術活動支援用外部資金の増加、学内知財の企業化を目指す。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	平成 31 年度 学術推進室の取り組み	○
1120	b	学術推進室定例会議 議事録	○
1120	c	学内研究情報交換会 企画書	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	学術企画課
--------	-------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 法人事務局長から示された「学園の組織改編について（2019年4月）」に則り、学術推進室 定例会議、総合工学研究所 運営委員会、中部高等学術研究所 所員会議、創発学術院 運営委員会を通じて、それぞれの組織の運営や活動などについて自己点検を行っている。[1120a] [1120b] [1120c] [1120d] [1120e]	
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	各研究所などの組織毎に会議を開催し検討を行っている。[1120b] [1120c] [1120d] [1120e]
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	組織間における点検や評価項目、評価体制の統一。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	組織間で情報共有や情報提供などを行うことを検討しているが、十分に行われていない。

--

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
1120	組織間で情報共有や情報提供などを行う。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	学園の組織改編について (2019 年 4 月)	○
1120	b	学術推進室 定例会議 議事録	○
1120	c	総合工学研究所 運営委員会 議事録	○
1120	d	中部高等学術研究所 2019 年度第 1 回所員会議議事録	○
1120	e	創発学術院 運営委員会議事録 (2019 年度)	○

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料 △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	学術支援課
--------	-------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
		(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施している、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 「学園の組織改編について（2019年4月）」に則り、活動を行っている。学術支援課は「民族資料博物館」「蝶類研究資料館」の事務を所掌している。「民族資料博物館」「蝶類研究資料館」には、それぞれ運営委員会等が設置されており、学術研究活動に関する報告・審議を通じて自己点検・評価が行われ、課員もそれぞれ「委員」又は「事務局」として参加している。事務に関しては、複数の学術研究機関の業務を一部署（学術支援課）で管理する体制となっているが、学術支援課全体としての会議等は行っておらず、事務部門に関する自己点検・評価の体制及び評価項目などが整備されていない。なお、事務的な連絡事項等については、メール、もしくは、直接、各学術研究機関を訪ね、説明している。 [1120a] [1120b] [1120c] [1120d] [1120e][1120f][1120g]。	
長所・特色 < 箇条書き > *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	「民族資料博物館」「蝶類研究資料館」にそれぞれ運営委員会等が設置され、そこで学術研究活動に関する自己点検・評価が行われ、課員も「委員」又は「事務局」として参加している。
項目 No.	
課題事項 < 箇条書き > *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	学術支援課全体としての会議等は行っておらず、事務部門に関する自己点検・評価の体制及び評価項目などが整備されていない。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、

第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	複数の学術研究機関の事務を一部署（学術支援課）で統一的に管理する体制、また、相互に協力し合える体制を目指して、組織間での情報共有や情報提供などの機会（合同会議の開催等）を設けようとしたが、できなかった。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	事務部門に関する自己点検・評価の体制及び評価項目などについての整備

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	学園の組織改編について（2019年4月）	○
1120	b	中部大学民族資料博物館運営委員会規程	○
1120	c	中部大学民族資料博物館外部専門者会議（博物館外部委員会）施行規則	○
1120	d	中部大学蝶類研究資料館運営委員会規程	○
1120	e	2019年度中部大学民族資料博物館運営委員会議事録	△
1120	f	2019年度中部大学民族資料博物館外部専門委員会議事録	△
1120	g	2019年度中部大学蝶類研究資料館運営委員会議事録	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管